

感染症情報 4月11日～17日

府下小児科200医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	1689例（堺市 74例）
②溶連菌感染症	367例（堺市 25例）
③おたふくかぜ	184例（堺市 9例）
④突発性発疹	96例（堺市 3例）
⑤みずぼうそう	66例（堺市 4例）

府下小児科・内科307医療機関（堺市28）から

インフルエンザ 607例（堺市 52例）

が報告された。

インフルエンザを除く感染症は前週から14%増加し、順位は変わらず第1位が感染性胃腸炎、第2位が溶連菌感染症、第3位がおたふくかぜとなっている。溶連菌感染症の増加傾向が続いているので、注意したい。インフルエンザは定点当たり2.0（堺市1.9）と9週連続して減少し終息に向かっている。新学期が始まったが、堺市の小中学校のインフルエンザによる欠席児童は4月18日で18名に過ぎず、学級閉鎖もない。当院でも4月20日に1例あった。

はしかの報告はなく、風疹の報告が1例あった。